

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 3年 9月11日
(祝 100号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 学塾・中之島事務局

祝 第十期 入塾式を迎えて



学とは
人たる所以を学ぶべし

代表

中川千都子

「学とは人たる所以を学ぶべし」
幕末の思想家、吉田松陰先生の遺された言葉です。
なんのために学ぶのか？

私たちがしばしば立ち止まるこの淡い霧のような
迷いに、松陰先生の言葉は鋭く光る刃物のように
胸に刺さります。

「学問とは人とはなにかを学ぶものである」

学び続けるのは、単に新たな知識を得るためでも、
仕事に役立てるためでも利益を生むためでもない
「人とは何か」を極めていくということなので
しょう。

鳥や獣などの禽獣も人間と等しく身体と生命を
持っているが、人としてのちを賜った限りは、
「人」とは何かを模索していかなければならぬ。

時代を超えて松陰先生は私たちに厳しく問い掛
けているのかもしれない。

コロナ禍のもと、人間学塾・中之島は十年目を
迎えました。

新たにご入塾された皆さま、前年に引き続きご継
続された皆さま、そして休塾制度にご登録くださっ
た皆さま、お一人お一人とのかけがえないご縁に
心から感謝いたします。

今新たにこの素晴らしい道友と歩んでいくことの
心強さと喜びを覚えます。

先月行なわれた卒業式において、清水正博顧問よ

り、「人間学塾はなにわの松下村塾たれ」との有
り難い言葉をいただきました。

幕末がそうであったように、時代が混迷を極め
るほどに正しい真の学びが必要となってくるもの
だと思えます。混乱のさなかでは、自分の外側で
起こる事柄に翻弄され、どちらに進めばよいのや
ら不安や恐怖が募るばかり。ちょうど今もそんな
混乱の世と呼べるのではないのでしょうか。多くの
人が不安に苛まれ、憤りを感じ、果ては絶望感を
も抱いている。

私は常々思います。明るい未来、より良い日本
を作るのは政治家ではなく、我々名も無い民では
ないのか、と。だからこそ、真の学びを求め続け
る必要性を強く感ずるのです。

変化する時代において、この名も無い大衆が、己
を振り返り、人の本質を学び、自分がこの世にお
いて、社会に対して何ができるか、なにをなすべ
きかを導く羅針盤として正しい真の学びがある。
それこそがわが塾の目指すところです。

皆さま なにわの松下村塾、人間学塾・中之島
へようこそ！

第十期のスタートに、新たな十年を見据えつつ、
足許の実践と学びを共に深めてまいりましょう。
どうぞよろしく願いたします。



第十期「明るい未来」

へ再生

副代表

古田 修平

人間学塾・中之島 第十期が始まります

塾生の皆様、世話人の皆様、顧問の皆様、講師の
皆様、そして、人間学塾・中之島の第九期まで関

わっていただいたすべての皆様へ、「ありがとう
ございます」と感謝の言葉を捧げたいと思います。
今私たちは、生活環境、物事を捉える考え方等、
今までと激変した時代に直面しています。

この時代に生きるからこそ、真の生き方が問われ
ると思えます。「すべてを受け入れる」ことは、
天分塾から人間学塾・中之島へ引き継がれた生き
方の基本です。

1998年6月に開塾の「天分塾」の十四年間
を継承し、2012年9月から「人間学塾・中之
島」がスタートしました。そんな中で、第八期の
期間中の2020年2月から世界中を巻き込んだ
コロナ禍というパンデミックによりいろいろな変
更を余儀なくされました。まず、3月の一泊研修
の中止、そして4月以降のカリキュラムの中止、
2020年9月より第九期へ引き継ぎましたが、
会場へ出席することが通常ではなく、リモート参
加も可能という方法を実施しました。

また、2021年4月よりは、メイン会場であ
る大阪大学中之島センターが、改築のため数年使
用することができなくなりました。別会場を探し
2021年8月に第九期を終了することができました。
今この時期は「逆境」と言えるかもしれません。
今年3月にご逝去されました人間学塾・中之島の
生みの親である寺田一清先生が常々おっしゃって
いました言葉の中に、「肯定・肯定・絶対肯定」
の「逆境は、神の恩寵的試練なり」をまさに実践
することになります。

第十期は、中川千都子新代表として9月11日
から始まります。今起こる様々なことに、人間学
塾・中之島の塾生・世話人・顧問・講師がワンチー
ムになり取り組むことで、将来、必ず明るい未来
になることは間違いありません。

塾生の皆様、共に学び、実践していきましょう。

「ご縁の広がり」



副代表

松本 学

人間学塾・中之島の第十期にご入塾されました皆様、おめでとうございます。皆様それぞれの思いを秘めてのご入塾と拝察いたします。

十二年も前になりますが、私も前身の天分塾第十二期の入塾式に、新たな学びへの熱き思いと共に、どんな塾なんだろうか、どんな人たちと一緒するのだろうかという不安を胸に参加させていただいたことを覚えていています。でも、大阪大学中之島センター十三階の佐治敬三メモリアルホールで迎えて下さった、先生方、事務局の皆様、そして塾生仲間となる皆様、それぞれが醸し出す不思議なオーラと、まさに「非日常空間」と呼ぶに相応しい温かい雰囲気、私の不安は吹き飛びました。次月からの開講日をワクワクと待ち遠しく思い、受講後はニコニコの笑顔で家路についたことが懐かしく思い出されます。

寺田一清先生が、天分塾ニュース第百三十一号(第十一期卒業記念号)に「お陰さま」のご講話を書かれています。当時の先生方や事務局の皆様の陰の努力によって塾での特別な学びを成就できたのだと今更ながら感謝の思いが込み上げてまいります。凡愚の私ですが、ご縁あつて節目となる第十期の副代表を務めさせていただくことになりました。ご恩に報いるべく、世話人の皆様と一丸となって、和気藹々とした学びの空間を守ってまいりたいと思っております。

人間学塾・中之島と天分塾の違いは、「塾生の塾生による 塾生のための塾」であるところです。主役はあくまでも塾生の皆様お一人おひとりです。不思議なご縁で繋がった人間学塾・中之島の道友が、この一年間を通じて親しみ合い、助け合い、譲り合つて、塾はある世界の手本となる人間塾を目指して共に歩めることを念じております。塾生の皆様お一人おひとりがそれぞれの学びを通じて「三つの誓い」を成就されますこと、また、ご自身の学びや幸せにとどまらず、この素晴らしいご縁の輪を広げていただけますこと、まさに天分塾を開塾いただいた、鈴木民二先生、西中務先生、寺田一清先生のご誓願だと確信いたします。

天分塾ニュース第百三十二号(第十二期入塾記念号)

に寺田一清先生が書かれた入塾生への三つのお願いを再掲させていただきます、人間学塾・中之島第十期のスタートにあたっての指針とさせていただきますと存じます。

★よき師よき友と交わり交流を重ねてください。

★生き方の原理原則をどうか学んでください。

★小さな実践の着手点をどうか掴んでください。

【ご注意】

現況の新型コロナウイルスの収束が見えない中、緊急事態宣言等の発令により下記に記載の日程・カリキュラムが変更になる場合がありますので、ご注意ください。

※変更の場合、皆さまへはご案内いたします。

《人間学塾・中之島》次月日程

◆ 日程 10月9日(土曜)

午後1時開講(受付午後0時)

◆ 会場 大阪市中央公会堂(地下一階大会議室)

大阪市北区中之島1丁目1-2

◆ 講師 石川真理子先生

「武士道の変遷 武士道観」



東京都出身。祖父方が仙台藩士、祖母方が米沢藩士という武家の家系に生まれ、明治生まれの祖母から武家に伝わる薫陶を受ける。文化女子大(現・文化学園大学)卒業後、大手出版社の編集プロダクション勤務。独立後は広告・雑誌・書籍における文筆活動の他、出版プロデュースを手がける一方で、武士道や武家の生活文化を独自に学び、忘れられた「婦道」について執筆やセミナーを通啓蒙活動を行う。『女子の武士道』『女子の品格』『武士の娘の思考法』『武士の子育て』『5月の螢』『女子の教養』など著書多数。

【11月日程】

宿泊研修

◆ 日程 11月13日(土曜)～14日(日曜)

◆ 会場 伊勢修養団研修センター

◆ 講師 三重県伊勢市伊勢市宇治今在家町153
寺田数宏センター長

「今をいきいき」

寺岡 賢講師

「今日一日を喜んで生きる」

第八・九期 卒塾式を迎えて



「感謝と報恩」

橋本美津枝

「人間学塾・中之島」の前身であります「天分塾」に第一期生として入塾させていただきましたのは、わたしが六十六歳の時でした。今年の十一月には満九十歳になります。この塾に老いて学ぶ機会にご縁をいただいたのは、わたしの人生にとりまして最大の幸運です。

立ち上げていただきました鈴木民二先生・西中務先生・寺田一清先生には大きなご恩を受けました。講師の先生方はじめ塾生のお一人おひとりが優れた才能をお持ちで、大きなご指導をいただきました。

教育を受けると言うことは、なにかが変わることを教えていただきます。私は大きく変わりました。自分を替えることができます。決断力がなく、物事が決められず、いつも相手に合わせて、納得のいかない人生を送っていました。その上、済んでしまっただろうしやうもならないことを「ああすれば良かった、あのときこうしておけばよかったのではないか」と、いつまでも引きずり、たえず後悔することを重ねておりました。そのような自分が嫌いでした。

ところがこの塾でご指導をいただきましてから、お陰様で自分を替えられることに気づきます。まだまだ未熟ですが、欠点も含めて努力を重ねている自分が大好きになってきました。知らないことを知る喜びに加えて、好奇心を働かせて、更に深く物事を学ぶと願う意欲がつねに湧いてまいります。

鈴木先生からは、読書の大切さを教わります。

令和二年一月一日から、毎日一頁あるいは、最低5分の読書を続けています。今のところ一日も欠かさず続けています。

西中先生がお母様のお話をされる時には、いつも涙ぐんで話されます。親孝行の大切さを学びました。亡き夫との結婚生活は39年間に及びましたが決して平坦な道ではありませんでした。何度逃げて帰りたいと思っただけではありません。その都度、実家の母は自分の努めを果たさず逃げて帰っても、また次の苦勞が待っているだけ、苦勞の色が変わるだけとあらゆる面で助けてもらったものです。最悪の親不孝の娘でした。

寺田先生には、感謝と報恩の大切さを教わります。感謝をするだけでは駄目、報恩が大切とご指導をいただきます。報恩を意識しますと、感謝の念は更に深まります。

森信三先生の教えの中で私がもっとも心掛けていますことは、

- 一、欲を少なく足るを知る
- 二、他人と比べない
- 三、裏切られた恨みは、これを他人に語るな。その悔しさを噛みしめてゆく所から、初めて人生の智慧は生まれる。

との教えを基本の三本柱にして自分を戒めています。

学んだ教えを十分役立てるところまでは成長していませんので、体力が続く限りこの塾での学びを続けさせていただきます。ご指導ください。

また、この塾で学べる幸せを、お一人でも多くの方々に味わっていただきたいと願っています。



第八期 九期の 卒塾に当たり

田中 喜一朗

本日はこうして第八期、九期の卒塾式を開催して頂きましてありがとうございます。

代表、世話人の皆様におかれましてはコロナ禍の中、毎月の講義を開くにあたり大変なご苦勞をされたと思います。ほんとにありがとうございます。

緊急事態宣言下でもこうして、卒塾式に参加させて頂いた事に、大変嬉しく思っております。

今こうして8期9期を思いだすと、昨年9月に開塾式を開いて頂いた時は、塾生の皆さんと大阪大学中之島校で再会し又学びが出来る、共に学び合える仲間が居る事に感激を致しました。

そして2月には横田南嶺老師が、講義の為に鎌倉から車で来て頂きました。

横田南嶺老師の人間学塾への想いの気魄を感じたように思います。そして講義に当たり「今日の出会いに感謝して始めたいと思います」「今日こうして巡り会うことのできたご縁の不思議に感謝いたします」の言葉は、コロナ禍で何となく沈んだ時期でしたので横田南嶺老師の言葉が私の胸に熱く響きました。

ご縁の不思議を実感したように感じました。今でも心に残っております。

私にとって九期の講義は1回1回がとても貴重な講義のように思えました。

それはまた緊急事態宣言が発令されて、休塾に成る可能性があるからでした。将に一期一会の想いで受講していました。

でもこうして現在も緊急事態宣言下でも卒塾式が開催



出ています。

私はリモートではありますが自宅から参加させて頂いています。ほんとに有難いことだと思います。感謝しております。

第十期もコロナ感染がもつと広がり緊急事態宣言やもつと厳しい処置がとられるかもしれないですが、学びに対してくじける事無くこの人間学塾・中之島で学び、自分自身の人間力を高めていきます。そして学びが私の人生を彩ってくれるように思います。

ありがとうございます。

《芳信抄》

東京都 鍵山秀三郎先生

西亀真先生ご自身の実体験に基づく貴重なお話しを
教えていただきました。

寺田一清先生の追悼文集をいただきましてありがとうございます。

私の体調についてご配慮をいただきましてありがとうございます。下旬から症状が著しく悪くなり苦しめられております。

愛媛県 桂 誠司様

追悼文集真にありがとうございます。みなさまの寺田先生への想いや、学ばれ方それぞれ大変勉強になります。寺田先生の凄さ、大きさが伝わってくる編集ご苦労様でした。

岡山県 柴田久美子様

卒塾文集『なかのしま』お送り頂き心から御礼申し上げます。大切な紙面に掲載頂き驚きました。

感謝

埼玉県 大出雅一様

寺田先生の追悼文集ずしりと重い立派な文集が完成
おめでとうございます。

「やったらなにかなる」という貴重な体験をされた西亀先生のご講話は、私自身の生き方の反省となりました。「マイナス+マイナス」は大きなプラスに転じる。人間のコンプレックスというマイナスを見事にプラスに転じた生き方に教えられました。寺田先生のアーカイブに「信号を守る」ことが、イライラ病からの解放になる。のに気づきました。

名古屋市 塚本恵昭様

追悼文集見事な編集ですがと感服いたしました。寺田先生きつとお喜びでしょう。

寺田先生、私どもの中にしつかり生きておられますね。このごろは毎日のハガキ書きが仕事となります。

なになにも ハイッ あがとうじむいます
あがるくすなほ んしやの道来
あすかにも 幸せの道ことろして
つねハイッ あがとうじむいます

茨木市 中村征四郎様

追悼文集拝受致しました。感謝申し上げます。

寺田先生をあらためて偲びながら、天分塾での懐かしいお名前を拝見して、以前を思い出しております。

お陰様で、天分塾でのご縁が今でも続いております。これが、森信三先生の「逢うべき人には・・・」です。

広島県 坂田道信様

立派な冊子にされましたね。寺田先生の大きさ、広さがわかる立派なものにしてくださいました。お礼を申し上げます。

伊東市 海瀬親雄様

この度は、人間学塾（中え島）の皆様から小川けい子さんに励ましのご厚情を賜り、真にありけとうございます。

本日はご主人様の本葬儀が営まわれ、小川さんにお届けしてまいりました。

心の整理はまだできていないところですが、前を向いて生きていきたいと仰言っています。

小川ケイ子様へみなさまからの義援金